

いちご状血管腫

○どんな病気？

皮膚表面や内部にてきるいわゆる「赤あざ」の一種です。見た目が赤く、いちごのような外観から「いちご状血管腫」と呼ばれています。頭や顔にできることが多く、日本人の発生率は1%程度とされています。原因はわかっていません。

○分類：①局面型：皮膚表面からわずかに盛り上がり、わりと早く消えます。

②腫瘤型：いちごを半分にして皮膚に置いたような形で、消えるのが遅く、しわになったりしやすいです。

③皮下型：表面には変化がなく、皮膚の下に腫瘤を触れます。

○自然経過：①増殖期：生後2週間程度であらわれ、生後1-2か月で増大します。

②退縮期：1歳をピークに徐々に小さくなり、90%以上で5-7歳までに消えます。

③消失期：局面型はほとんど跡を残さず消えます。皮下型・腫瘤型でも小さいものであればほぼ消えますが、腫瘤が大きいものは瘢痕などが残る場合があります。

○治療方法：

①経過観察：基本的には自然消退するものなので、無治療で経過観察を行います。

②プロプラノロール：美容的に問題があったり、身体に異常をきたす場合には、飲み薬による治療を行うことができます。生後2-5か月までに治療を始めます。呼吸困難や低血糖、低血圧などの副作用があるため、少しずつ飲む量を増やすなどの工夫が必要です。1歳のお誕生日を目安に、効果を見ながら飲み薬はおしまいになります。

③色素レーザー治療：自然退縮を早める効果と、生後2-3か月以内に開始できればピーク時の大きさを小さくする効果が期待できます。

④手術：退縮後の瘢痕や皮膚のたるみなどに直すために、通常は7歳を過ぎてから局所麻酔で行います。

